

大豆とお米の教室を開催

中北地域普及センター

中北地域普及センターでは、小・中学生を対象に作物を栽培する楽しさと、収穫することの喜びを実感してもらい、地域農業への関心を高めることを目的に、学校農園を活用した取組みを支援しています。

本年度は南アルプス市立若草小学校で、大豆と水稻の栽培を支援しています。栽培管理方法についての学習会では、「大豆はどれくらいとれますか」「大豆はひとり何kgぐらいたべているのですか」など、収穫や産地に関する活発な質疑が出され、大豆そのものへの関心の高さが伺えました。

これと併せて、農業の持つ多面的機能への理解促進のため、田んぼの生き物調査を実施し、水田における生物多様性保全といった機能も重要な役割であることを理解してもらうことができました。

今後は、これらの収穫体験を通じ、自ら育てた農作物を収穫する喜びとその利用方法に至るまでを理解してもらうことで、自分の住む地域で行われている農業生産活動に目を向けて、将来の担い手として地域に定着してくれることを期待しています。



みんな大豆はかせになれそうです



「ひと粒入魂？」みなさん真剣です

ブドウ雨よけ施設の導入による安定・高品質生産に向けて!!

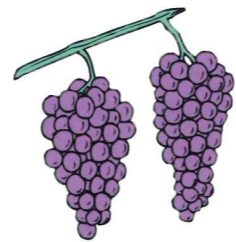
峡東地域普及センター

ブドウの栽培は、近年の異常気象により、結実不良やべと病等の病害の発生、収穫期の裂果など、その年の作柄を大きく左右する問題が多発しており、高収益農業の実現に向けて抜本的な対策が求められています。

こうした中、安定生産と高品質化に有効である雨よけ栽培が、地域で改めて注目されています。

これを受け、峡東地域ではJAが中心となり、雨よけ施設の実証圃を設置し、着色状況や病気の発生状況を調査しその有効性を確認しています。実証圃では、短梢平行整枝仕立てにおいて主枝上（結実部）にビニールを簡易的に被覆する「簡易雨よけ施設」、従来のサイドレス施設の約半分のコストで設置できる「スーパー低コストサイドレスハウス」の2種類が検討されています。

既に、農業者や農協及び県関係機関などによる現地検討会等が開催されており、多くの参加者が集まり関心も高く、今後の導入が期待されています。



スーパー低コストサイドレスハウス



簡易雨よけ施設



農業者やJA、県職員による現地検討会

あじさいで地域づくりを支援しています

峡南地域普及センター

富士川町の小室地区は、特産品のゆずが有名ですが、寺院の境内に約2万株のあじさいがあり、「あじさい寺」とも呼ばれ地域の観光の名所として有名です。そのあじさいは、地域ぐるみで管理され守られてきました。

近年、手入れが行き届かず花の色が薄くなってきているなど、管理に課題を抱えていました。観光資源のあじさいを保全するとともに、地域が年間通じた他地域との交流を持つため、普及センターで支援し、今年7月22日(日)に、あじさいの花後の剪定ボランティア活動を行いました。

当日は、78名の参加者が地域住民と交流を図りながらあじさいの管理に汗を流し、参加者からは「地域の皆さんのまとまりと一生懸命さを感じた」「今後も地域活動に協力したい」「来年の花盛りに来たい」等の声が寄せられました。

今後は、剪定ボランティア活動だけではなく、苗植え付けボランティア活動などを計画しています。他地域との交流をさらに推進し、まずはあじさいやゆずをきっかけに小室地区を知ってもらい、年間を通して小室に人が来てくれるようなメニューを企画し、活気ある地域になるよう活動していきます。



剪定作業に多くのみなさんが参加



多くの品種を守り増やしていきます

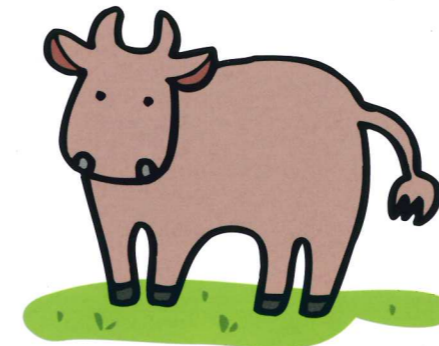
耕作放棄地へ解消を目指して レンタル牛の放牧を支援

富士・東部地域普及センター

富士・東部地域では、管内の耕作放棄地の解消に向けて、レンタル牛を利用した放牧を進めています。本年度は、大月市と都留市内の2カ所で放牧を行いました。その1つである大月市では、NPO法人おおつきエコビレッジが鳥沢地区の遊休農地や里山など10haを管理しています。

おおつきエコビレッジは、重労働になっている梅と桜の林の除草管理作業を軽減するため、普及センターの斡旋により南アルプス放牧研究会が所有するジャージー牛2頭を借り受け本年6月から放牧を開始しました。

普及センターでは、電気牧柵の張り方や牛の飼養管理などきめ細やかな指導を行うとともに、牛を地域の観光資源としても活かしていくよう指導を行っています。さらに、おおつきエコビレッジを展示園として活用し、管内で遊休農地の活用に取り組む団体へのレンタル牛の導入に向けて市町村等と話し合いを進めています。



除草対策で活躍中



子供たちもお気に入り